

大学生の就職活動に関する意識調査－2009年度就職合宿を実施して－

著者	肥田 幸子, 澤田 節子
雑誌名	東邦学誌
巻	39
号	2
ページ	65-80
発行年	2010-12-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1532/00000226/

大学生の就職活動に関する意識調査 —2009年度就職合宿を実施して—

肥田幸子
澤田節子

目次

- I. はじめに
- II. 就職合宿の概要
- III. 調査方法
- IV. 結果
 - 1. Kiss18の分析結果
 - 2. 記述調査の結果
- V. 考察
 - 1. 就職合宿の効果
 - 2. 学部別対比からみえるもの
- VI. おわりに
 - 1. まとめ
 - 2. 今後の課題と提言

I. はじめに

大学卒業者の就職状況は厳しさを増している。文部科学省と厚生労働省は大学生の平成21年度（2009年度）卒業予定者の就職率が、前年度を3.9ポイント下回ると発表しており [1]、2010年度卒業者についてはより厳しい状況が予測される。本学ではこの状況を踏まえ、学生の就業力向上を目指すいくつかのプランを実施、検討している。2009年度には「小さな大学のキャリア支援～大きな夢を育てる就職合宿～」をテーマに文部科学省より、GP（特色ある大学支援プログラム）を取得した。その一環として、2009年10月から12月に1泊2日の就職合宿を実施した。2009年度の就職合宿は、就職活動を開始する経営学部、人間学部の人間健康学科（以下、人間健康学科とする）と子ども発達学科の3年次学生が対象であった。本稿では、基本的に同じ合宿プログラムで実施した経営学部の学生と人間健康学科の学生を対象とした。

就職合宿がより効果的に継続されるためには、何らかの実証的根拠を示す必要がある。この合宿プログラムは今後の継続が期待されており、学生にとってより実りのあるものにしていくためにも実証的な検討は欠かせない。本就職合宿は、学生参加型のプログラムの一つとして、「学生個人の今までの学生生活の振り返りから、夢への道をつけること」をねらいとしている。本稿では、学生たちは今回の体験をどのように受けとめ、どの程度の知識やスキルを身につけたと実感しているかについて把握しておく必要があると考えた。また、人間健康学科よりも後日実施された経営学部においてプログラムが一部修正されたことによつて、どのような差が現れているかにも着目した。

そこで、就職合宿の開始前と終了後に、本プログラムが学生たちの社会スキル（「Kiss18」：Kikuchi's

Scale of Social Skills) にどのような影響を与えたか、また、今回の合宿に抱いている期待感と満足感など、学生がどのような意識をもって臨んでいたかについて、学部別に比較検討することを目的とした。

Ⅱ. 就職合宿の概要

2009年度就職合宿は、3年生全員に対し参加の呼びかけをした。最終的には以下のような参加の状況となり、実施日・参加者数は表1に、プログラムは表2に示した。

表1 参加者の概要

	実施日	実施場所	参加人数(参加率)	引率教職員	外部講師
経営学部	12/5・6	Gホテル	61人 (44%)	6人	2人
人間健康学科	11/28・29	Gホテル	60人 (71%)	6人	2人

表2 プログラム

1日目

時間	経営学部	時間	人間健康学科
13:00～ 13:10	・ガイダンス合宿全般の案内	13:00～ 13:10	・ガイダンス合宿全般の案内
13:10～ 13:55	・就職を取り巻く環境 ・将来どんな仕事をしていきたいか ・work将来像の記入する	13:10～ 13:55	・就職を取り巻く環境 ・将来どんな仕事をしていきたいか ・work将来像の記入する
14:10～ 15:25	・就職活動の基礎知識 ・学生生活について話す基本 ・work学生生活 ・面接についての説明 ・work面接時の姿勢	14:10～ 15:25	・就職活動の基礎知識 ・学生生活について話す基本 ・work学生生活 ・面接についての説明 ・work面接時の姿勢
15:40～ 16:30	・模擬面接の内容説明 ・work各自面接用意	15:40～ 16:40	・模擬面接の内容説明 ・work各自面接用意
16:30～ 17:30	・第1回模擬面接 「学生生活・将来像」	16:40～ 17:20	・第1回模擬面接 「学生生活・将来像」
17:40～ 18:10	・第2回模擬面接 「学生生活」	17:35～ 17:55	・discussion 班代表を選ぶ
18:15～ 18:25	・discussion 班代表を選ぶ		
19:30～ 19:55	・work班対抗大会「学生生活」 ・各自練習	19:10～ 19:50	・work班対抗大会「学生生活・将来像」 ・各自練習

2日目

9:00～ 10:15	・班対抗面接の説明 ・work班対抗面接「学生生活」	9:00～ 10:15	・班対抗面接の説明 ・work班対抗面接「学生生活・将来像」
10:45～ 11:15	・相互面接大会の振り返り ・講評	10:45～ 11:15	・合宿を振り返って ・総括

上記の表で、欄が塗りつぶされた箇所、太線は経営学部と人間健康学科のプログラムの相違部分。人間健康学科より日程の遅い経営学部で、数カ所が修正されている。

Ⅲ. 調査方法

1. 調査対象

大学3年次生、121人（経営学部61人、人間健康学科60人）

2. 調査方法

会場内において、合宿開始時に調査用紙を配布し、参加者が記入した（以下、事前調査とする）。同会場において、プログラム終了後に調査用紙を配布し、参加者が記入した（以下、事後調査とする）。

3. 調査内容及び分析方法

(1) 社会スキルテストは、事前、事後調査ともにKiss18を使用した。この尺度は正式名を「Kiss18」(Kikuchi's Scale of Social Skills: 18 items) といい、菊池が社会スキルを計るために1988年に開発したものである [2]。この尺度の適応は中学生以上の「若者」であるが、成人はもちろん高齢者への適応例もある [3]。信頼性に関しては多くの検証があるが、菊池は60名の男子大学生から 0.83の、67名の女子大学生から 0.86の α 係数を [4]、和田は42名の大学・大学院生から 0.86の α 係数を算出している [5]。

菊池は社会スキルを「対人関係を円滑にするスキルで、相手から肯定的な反応をもらい、否定的な反応をもらわないようにすること」と定義している [6]。就職合宿の目標の一つに対人関係スキルの向上があり、質問項目も「初対面の人に、自己紹介が上手にできますか」等の質問で構成されているところから、今回の合宿の質問紙として妥当であると判断し、この尺度を用いた。

Kiss18は社会スキルに関する18項目の質問で、「いつもそうだ」「いつもそうではない」を両極にする5段階評価で訊いたものである。分析方法は5点～1点で計数した。

(2) 自由記述調査の事前は、「あなたが就職合宿に期待するもの」、事後は「就職合宿で得たもの」をテーマに自由記述を求めた。分析方法は、以下のように行った。①自由記述された生データを2人の研究者で繰り返し読み、全く意味内容が把握できないものは無効とした。②生データは一文を一コードとしてコード化した。③各コードを読み取り、類似性・相違性に従ってまとまりを作り、そのまとまりをサブカテゴリーとして命名した。④全てのサブカテゴリーを確認したうえで、カテゴリーとして抽象化した。

4. 倫理的配慮

学生に調査目的と守秘義務、協力の自由と拒否によって不利益を被らないことを口頭で説明した。質問紙の提出をもって同意を得た。また、調査結果の公表について同時に許可を得た。

Ⅳ. 結果

1. 社会スキルテストKiss18の結果

事前、事後ともに社会スキルテストKiss18の回収率は100%であった。

図1は、全項目の合計点を全体、経営学部、人間健康学科別に事前、事後比較したものである。この結果からは、事前より事後の方が社会スキルの得点が高いことが分かる。また経営学部と人間健康学科を比較すれば、経営学部の方が変化は大きい。

項目別に変化をみるために事前、事後の差の検

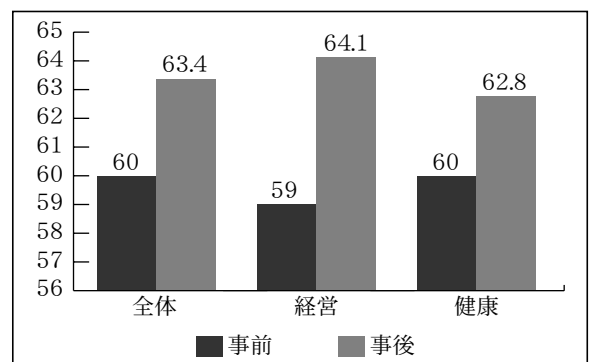


図1 社会スキルテスト事前事後合計点

定を行った。その結果を右の表3に示す。質問項目2, 3, 4, 9, 16, 17, 18が $p < .001$ 以下の有意確立、質問項目13が $p < .01$ 以下の有意確立、質問項目10, 11が $p < .05$ 以下の有意確率で有意に高くなっていることが明らかになった。また、それら有意差の有無の項目に対して、何らかのかたまり、(傾向)があるかを調べるために因子分析を行った(表4)。その結果4つの因子に分解することができた。

第1因子は、16. 何か失敗したときに、すぐに謝ることができますか、11. 相手から非難されたときもそれをうまく片付けることができますか等の質問項目であるため、対人関係における**問題解決スキル**と名付けた。第2因子は、5. 知らない人とでも、すぐに会話が始められますか、10. 他人が話しているところに気軽に参加できますか等の質問項目であるため**コミュニケーションスキル**と名付けた。

表3 社会スキルテスト項目別事前事後差の検定(全体)

項目	平均	SD	t	有意確率
1	-0.050	0.893	-0.611	0.542
2	-0.273	0.856	-3.503	0.001 ***
3	-0.455	1.057	-4.732	0.000 ***
4	-0.455	0.983	-5.085	0.000 ***
5	-0.083	1.120	-0.815	0.416
6	0.331	1.221	2.979	0.003 **
7	0.050	1.154	0.473	0.637
8	-0.140	1.090	-1.418	0.159
9	-0.345	1.093	-3.440	0.001 ***
10	-0.248	1.149	-2.373	0.019 *
11	-0.233	1.128	-2.266	0.025 *
12	-0.149	1.123	-1.457	0.148
13	-0.267	0.941	-3.103	0.002 **
14	-0.149	1.038	-1.576	0.118
15	-0.058	1.113	-0.572	0.568
16	-0.467	1.107	-4.617	0.000 ***
17	-0.492	1.077	-5.002	0.000 ***
18	-0.455	0.975	-5.130	0.000 ***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

表4 社会スキルテスト因子分析結果(プロマックス回転)

	I	II	III	IV
〈第1因子〉問題解決スキル				
16. 何か失敗したときに、すぐに謝ることができますか	.612	.180	.215	-.048
11. 相手から非難されたときもそれをうまく片付けることができますか	.558	.273	.146	.216
4. 相手が怒っているときに、うまくなだめられますか	.546	.179	.111	.322
14. あちこちから矛盾した話が伝わってきても、うまく処理できますか	.476	.138	.314	.416
17. まわりの人たちが自分とは違った考え方をもっていてもうまくやっていますか	.459	.341	.358	.054
12. 仕事のうえで、どこに問題があるかすぐに見つけることができますか	.442	.153	.387	.133
8. 気まずいことがあった相手と、上手に和解できますか	.375	.264	.157	.353
〈第2因子〉コミュニケーションスキル				
5. 知らない人とでも、すぐに会話が始められますか	.264	.674	.153	.177
10. 他人が話しているところに気軽に参加できますか	.257	.663	.174	.367
1. 他人と話していて、あまり会話が途切れない方ですか	.145	.660	.278	.204
15. 初対面の人に、自己紹介が上手にできますか	.394	.466	.245	.171
〈第3因子〉マネジメントスキル				
18. 仕事の目標を立てるのに、あまり困難を感じない方ですか	.174	.139	.699	.201
9. 仕事をするとき、何をどうやったらよいか決められますか	.160	.180	.577	.293
2. 他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか	.221	.387	.558	-.062
3. 他人を助けることをうまくやれますか	.343	.190	.518	.246
〈第4因子〉アサーションスキル				
7. 怖さや恐ろしさを感じたときに、それをうまく処理できますか	.019	.206	.129	.725
6. 周りの人たちとの間でトラブルが起きてもそれをうまく処理できますか	.412	.144	.243	.508
13. 自分の感情や気持ちを、率直に表現できますか	.230	.400	.189	.471

第3因子は、18. 仕事の目標を立てるのに、あまり困難を感じない方ですか、9. 仕事をするときに、何をどうやったらよいか決められますか等の質問項目であるため**マネジメントスキル**と名付けた。第4因子は、7. 怖さや恐ろしさを感じたときに、それをうまく処理できますか、6. 周りの人たちとの間でトラブルが起きてそれをうまく処理できますか等の質問項目であるため**アサーションスキル**と名付けた。

質問項目を因子別にかため、事前、事後を比較すると下図のようになる。経営学部は図2、人間健康学科は図3で示した。経営学部は各項目、因子ともに事前より事後に伸びがみられる。人間健康学科は項目によっては下がっているものや、因子別にも得点変化にばらつきがある。

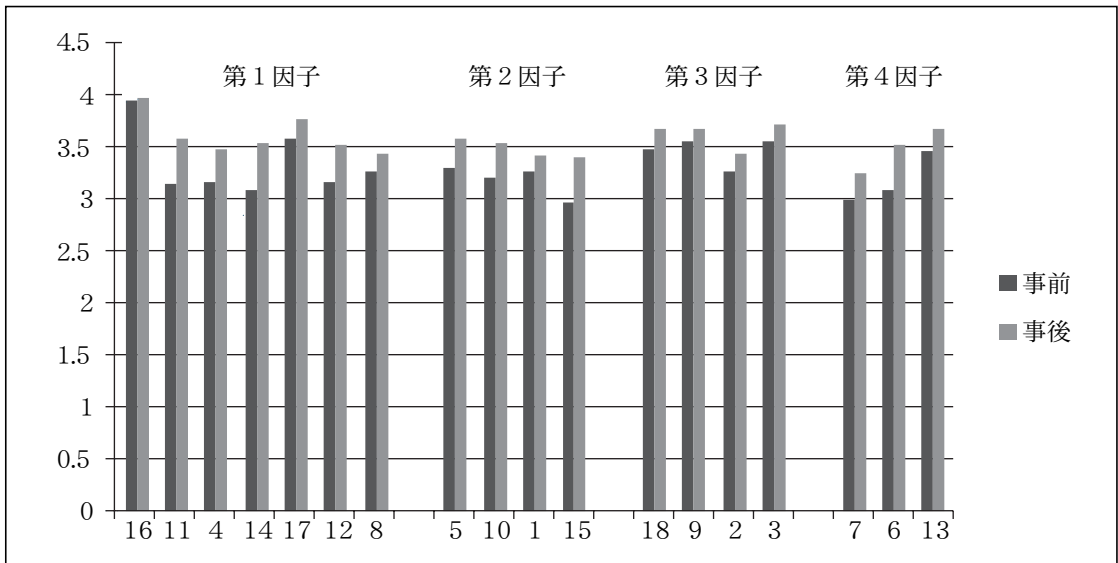


図2 社会スキルテスト因子別事前事後比較 (経営学部)

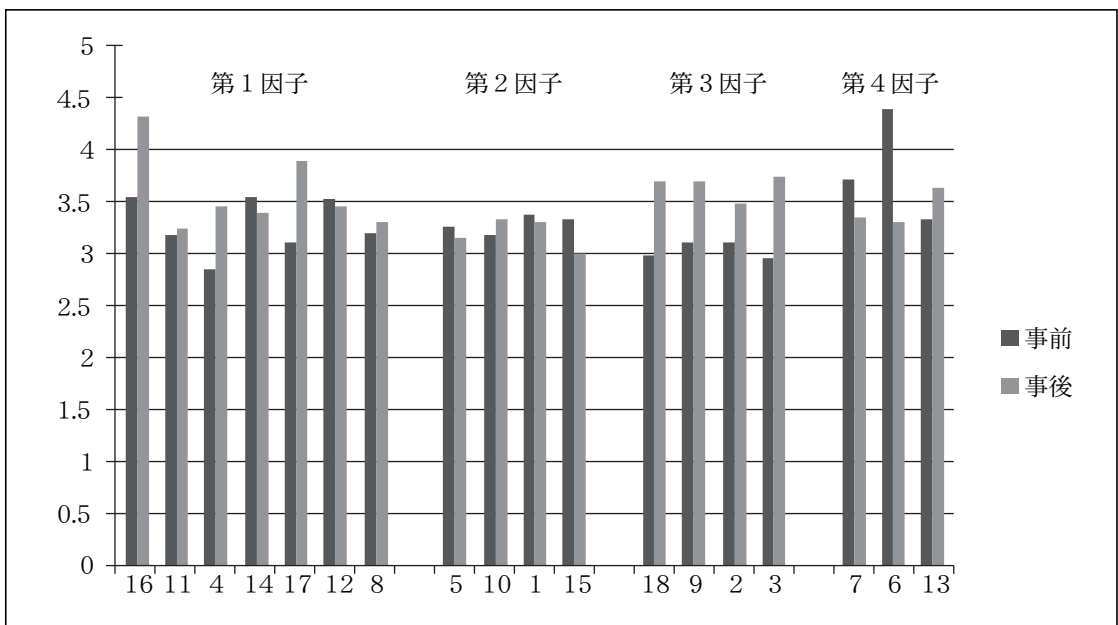


図3 社会スキルテスト因子別事前事後比較 (人間健康学科)

人間健康学科の第2、第4因子に変則的な変化が見られるため、各因子を数量的に検討した。表5は全体、経営学部、人学部の因子別、事前事後の差を検定したものである。

表5 社会スキルテスト 事前、事後の因子別差の検定

	全体			経営学部			人間健康学科		
	平均値	t	有意確率	平均値	t	有意確率	平均値	t	有意確率
第1因子	-2.02	-5.91	.000 ***	-2.05	-4.35	.000 ***	-2.00	-3.98	.000 ***
第2因子	-0.40	-1.51	.135	-1.15	-3.53	.001 **	0.35	0.85	.397
第3因子	-1.48	-6.30	.000 ***	-0.59	-2.41	.019 *	-2.38	-6.44	.000 ***
第4因子	0.15	0.67	.503	-0.90	-3.43	.001 **	1.22	4.03	.000 ***

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

以上から、第1、第3因子は全体、経営学部、人間健康学科ともに有意に高くなっている。人間健康学科の第2因子の変化が少なく、第4因子においては有意に低くなっていることが示されている。全体としては第2、第4因子が人間健康学科に引きずられる形になっている。

2. 記述調査の結果

コード（記述内容）の全体数は、事前85、事後139であった。サブカテゴリーは事前12、事後16で、カテゴリーは事前7、事後6であった。以下の文中では、コードは「」、サブカテゴリーは《》、カテゴリーは【】で示す。

(1) 就職合宿前の学生の期待

調査結果の事前コードの全体数について、経営学部は、61人の出席で32人（49.2%）の記述があり、2人は意味不明のため無効とし、コード数は30であった。サブカテゴリーは、《就職活動に役立つ》でコード数（6）、《就職活動への期待》（4）、など4つであった。カテゴリーは、【就職活動への期待】【面接について学ぶ】【合宿での学び】の3つに集約された。（図4）

人間健康学科は、60人の出席で50人（83.3%）記述があり、コード数は55であった。サブカテゴリーは、《就活の現状を知る》（6）、《就職活動への意識を高める》（8）など8つであった。カテゴリーは、【就職活動に必要な知識】【面接での話し方】【自己成長】【合宿での学び】の4つに集約された。（図4）

全体を比較してみると、経営学部は、サブカテゴリーで《就職活動への期待》や《面接王になる》という、明確な目的意識をもった学生がおり、出席者の約半数の記述であった。人間健康学科は、《就活の現状を知る》《就職活動に対する知識》や《自分自身を知る》などが加わり、経営学部に比べ記述数では約2倍多かった。

次に主なコードの内容をみると、経営学部では、1.「就職に対して意欲をもてるようにしたい」、10.「自己分析、人間力、就職に対する期待」、15.「面接や人前で話すことになれることを期待している」、22.「一つでも何かプラスになることを得られればよい」など、就職活動に対する期待についての表現であった。

人間健康学科では、3.「現状を知り、就職に活かせるようにする」、9.「就職に対して、危機感を感じ、自ら動き出せるようになりたい」、17.「就職の厳しさについて勉強する」、23.「就職活動に必要な知識をできるだけ多く吸収したい」、34.「トークスキル、面接官の前でしゃべれること」、42.「今の自分自身がどの程度のレベルなのかを知るいい機会」、46.「自分はどんな人間なのかを確かめたい」、54.「エントリーシート の書き方」など、就職活動に対する知識の習得や自分を知る機会でもあると期待する表現をしていた。

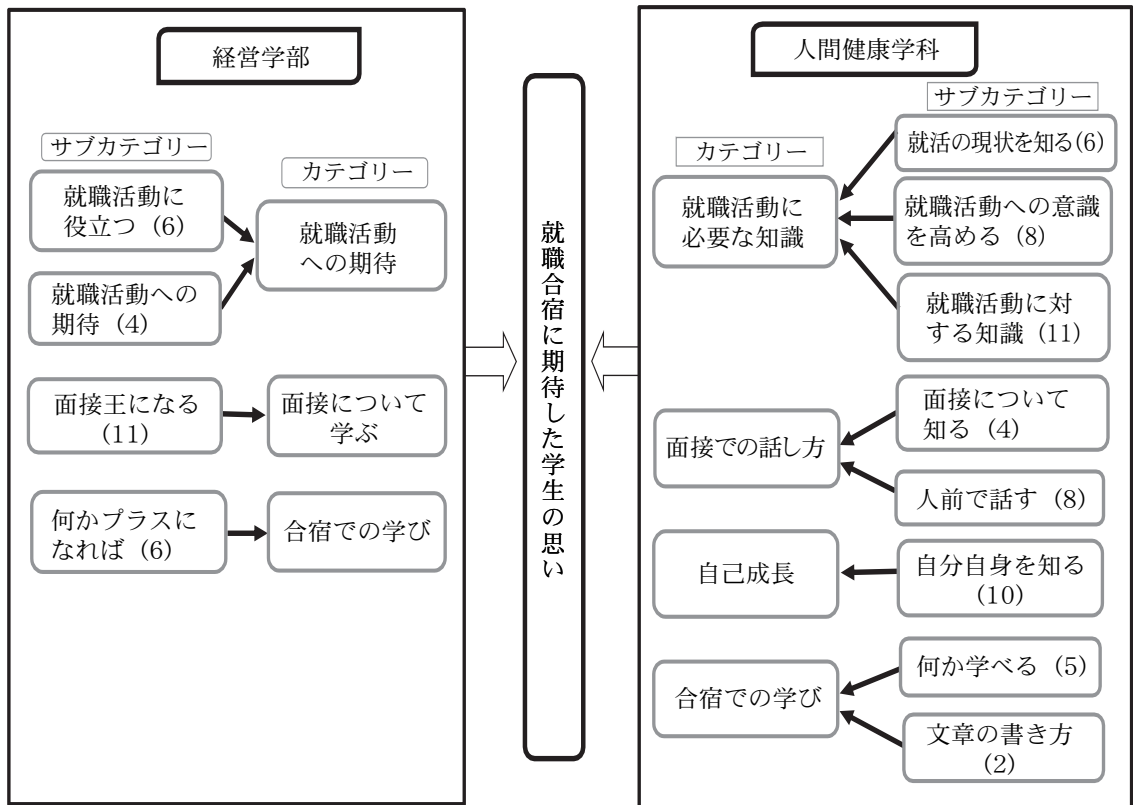


図4 就職合宿前の学部別カテゴリーの比較

(2) 就職合宿後に得た学生の思い

調査結果の事後コードの全体数について、経営学部は56人(91.8%)の記述があり、コード数は66であった。サブカテゴリーは、《就職活動の意欲の向上》(9)、《面接に対する意識の変化》(10)、《自己PR作成の向上》(10)、《面接の内容・緊張感》(11)、《人前で話す難しさ》(9)、《現状の認識・事前準備》(7)、《就活のスタートライン》(3)、《自己自身を知る》(7)、《就活のスタートライン》(3)であった。カテゴリーは、【就職活動に対するモチベーションの向上】【就職活動に対する課題の認識】【就職活動に対する漠然としたイメージ】の3つに集約された。(図5)

人間健康学科は59人(98.3%)の記述があり、コード数は73であった。全体的に一つの文が短く区切られていたことからコード数が多くなった。サブカテゴリーは、《就職活動の意欲の向上》(6)、《面接に対する意識》(3)、《自己PRの作成》(2)、《面接の内容・緊張感》(15)、《人前で話す難しさ》(13)、《現状の認識・事前準備》(12)、《自己自身を知る》(9)、《就活のスタートライン》(13)であった。カテゴリーは経営学部と同様で3つに集約された。(図5)

全体を比較してみると、【就職活動に対するモチベーションの向上】は、28.1%であった。経営学部は人間健康学科に比べると、43.9%と格段に多くなっていた。特に経営学部はサブカテゴリーの《面接に対する意識の変化》や《自己PR作成の向上》が人間健康学科と比較して多い。

次に【就職活動に対する課題の認識】は、全体で48.9%と約半数であった。人間健康学科が最も多く56.2%と半数以上であった。また、【就職活動に対する漠然としたイメージ】は、全体で23%であり、人間健康学科が30.1%と多くなっていた。

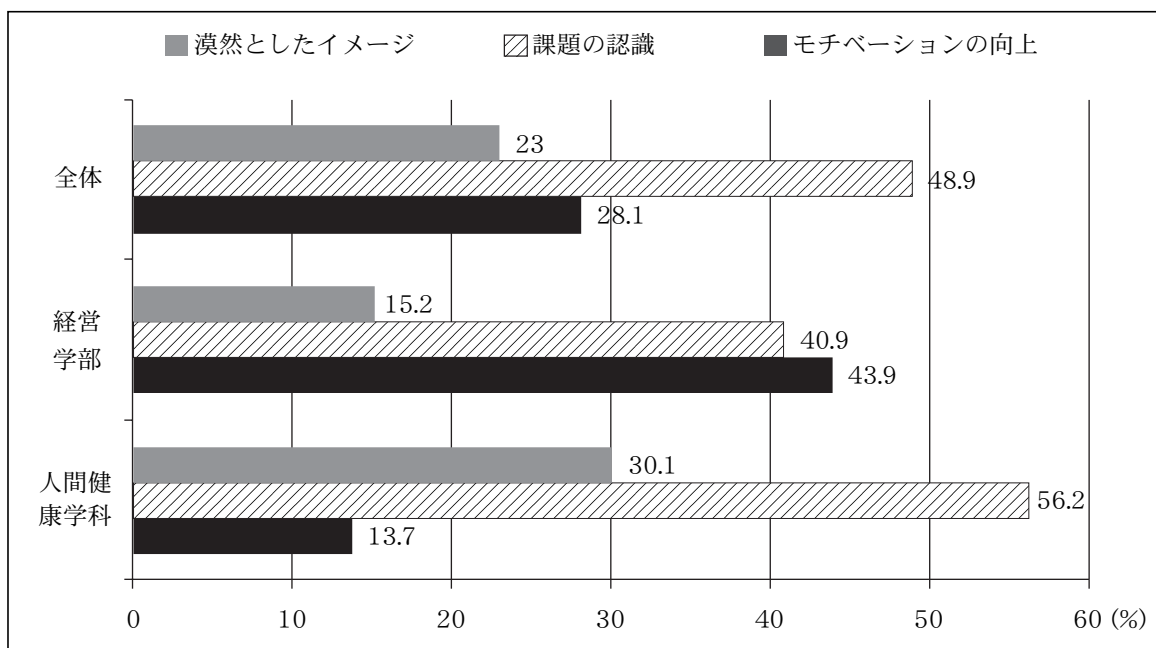


図5 就職合宿後の学部別コード（記述内容）の比較

次に主なコードの内容をみると（資料2）、【就職活動に対するモチベーションの向上】について、経営学部では、3.「就職のためのキッカケをつかむことができた」、14.「面接の緊張感を肌で実感できた」、21.「特に自己PRをもう一度見直す時間があったのでよかった」などであった。人間健康学科では、1.「就職に対する意気込みを得た」、7.「面接の時に何をすればよいか、対応すればよいかがつかめた」、10.「面接での自己PRで、具体性の必要さがわかった」など、面接や自己PRを想定した意気込みを示す肯定的な表現であった。

【就職活動に対する課題の認識】について、経営学部では、3.「面接の雰囲気味わうことができた」、12.「面接時の自己PRは、話す難しさが認識できた」、18.「人前で話すこと、面接のコツ(2)」、24.「自分の得た経験を言葉にして相手に伝える難しさ」、などであった。人間健康学科では、6.「本番さながらの緊張感の体験(2)」、12.「自己PRについて考え直す」、20.「学生生活、将来像をまとめることの難しさ、人前で話すことの難しさ」、30.「言葉づかいの難しさ、緊張に耐える心を身にしみて感じた」など、自己を振り返り、それぞれの課題を見出した表現であった。また、コードの内容は、一文の中で緊張感とか難しいという表現を含み短い文で纏められていた。

【就職活動に対する漠然としたイメージ】について、経営学部では、3.「今自分が持っている実力はこんなものだ」、7.「自分の発言に責任をもつこと」などであった。人間学部では、4.「自分を見つめ直すことができた(2)」、11.「本当に就職活動なのだ実感した」など、明確な内容を捉えきれず、就職活動をしなくてはいけないという段階であった。

V. 考察

1. 就職合宿の効果

記述内容から得られたことは、“就職活動に関する知識やスキルの習得”が大きな効果としてあげられる。就職活動に期待したこと・得たことは、「面接の受け方」「自己PRの仕方」「就職活動に必要な知識」「自己認識」などの内容で構成されている。経営学部は、事前の記述数がやや少なくなっていたが、「秘訣

を知りたい」「勉強したい」という期待があった。事後は、「面接」、「自己PR」という主語が明確になって、「話せるようになった」「自己PR書が作れた」というように、知識やスキルを身につけたと実感し、就職活動に対する意欲・意志が表出されているのである。

一方、人間健康学科は、事前、事後共に就職活動に対する視野が拡がり、知識の習得ができたとしている。しかし、事後の面接、自己PRでは、「分かった」「できた」と表現している学生がわずかである。これは、事前に抱いていた期待とはやや異なり、合宿体験でできない自分が実感され、「自分はこんなものか」「人前で話すことの難しさ」など、自分自身を知るよい機会となったのではないか。今後の就職活動に対する自身の気構えができ、事前準備の重要性が認識されたものと思われる。

文部科学省が推進する「キャリア教育」からみると、「高等教育への進学率が高まり、とりえず進学した若者は、広い意味での勤労観・職業観の未熟さをはじめ、コミュニケーション能力や対人関係能力、基本的マナー等、若者自身の職業人としての基礎的資質・能力の低下していることも課題である」[7]としているように、人間健康学科でも、職業観が未熟で基本的なマナーもできていない学生もいるのが現状である。

この就職合宿に参加することで、多様な刺激を受け、第一歩を踏み出すまでの知識やスキルを身につける機会になったのではないか。つまり、合宿を機に大半の学生が危機感を感じ、「知りたい」「何か学べる」「慣れたい」という反応がみられたことから、本学のねらいにも示されている現状把握や知識の習得に関しては効果があったものと考えられる。

社会スキルテストKiss-18によれば、学生はこの就職合宿で、対人関係や仕事に関する社会スキルが上がったと感じていることが確認された。分析の結果では、18項目中16項目に上昇が見られ、そのうち10項目では有意な上昇変化が認められた。しかし、このような短期間の講習においては、一部、実質的な社会スキルの向上も考えられるが、多くは就職に関する知識やスキルが身についたという自覚が自信につながり、得点の上昇を招いたものと考えられる。浦上は職業選択とセルフ・エフィカシーを論じる中で、「進路選択セルフ・エフィカシー（自己効力感）¹⁾を高くもつものは進路選択行動を活発に行い、また努力もする」と述べている [8]。この自信こそが重要であり、次への行動につながるきっかけとなる。

2. 学部別対比からみえるもの

(1) 就職活動に対する意欲の向上

事後調査の記述内容を学部別対比でみると、経営学部と人間健康学科の差は顕著に表れている。就職合宿後に得た学生の思いは、「就職活動の意欲の向上」「面接に対する意識の変化」「自己PR作成」などであり、向上心に関する内容で構成されている。特に経営学部は「意欲の向上」「やる気ができた」「キッカケをつかむことができた」など、前向きで肯定的な内容がみられる。加えて、「面接での緊張感を肌で実感できた」「就活に対する意識がかなり変わった」と明確な意思表示もみられ、「人前で話す経験は大きい」「見直す時間があってよかった」など、それぞれの目標が達成されたようである。

一方、人間健康学科は、「意欲・やる気がでた」「少し自信をつけることができた」と表現しているものの、数的に少なく短い文での表現に留まっている。これは、モチベーションの向上という観点のみからみると、十分に実感されたとは言い難い。

中日新聞の「能動的意識を持ちスキルアップを」のなかで、「企業が求めているのはヒューマンスキルです。自ら能動的に動く自立した人材が求められています。」と述べているように [9]、就活に対しては能動的な意識を持つことが重要であり、まずはスタートラインに立ち前に進むことである。本調査で意欲の向上に関してコード数でみると、経営学部は4割以上、人間健康学科は1割強であることから、せめて半数以上となるよう今後は、個別的に対応しつつ、キャリア支援を強化し続けていく必要がある。

(2) 進路に対する自己の課題認識

就活に対する課題認識は、「面接の内容・緊張感」「人前で話す難しさ」「現状の認識・事前準備」など、自己の課題に関する内容で構成されている。課題の認識については、人間健康学科の方がやや多くなっていた。コードの述語をみると、「学んだ」「知った」「思った」「感じた」「確認できた」「自覚した」という現状や自己の課題が認識できたという内容を読みとることができる。

今回のプログラムは、就職活動で重視される「面接」が主な内容となっていたことから、面接とはどのようなもので、どのように対応するのか、という方法論的なことは理解できたと推測される。しかし、この面接体験では「自己PRの難しさ」「人前で話す緊張感・難しさ」という記述が多く、コミュニケーション能力や対人関係能力の不足を実感したものと思われる。

特に記述内容で目立ったのが「緊張感」「難しい」という用語である。この用語は、経営学部8件、人間健康学科4件あり、また、「難しい」という形容詞は、経営学部6件、人間健康学科7件あった。将来をみつめ、自分自身をみつめ直すことは、自分との闘いでもある。合宿での場面から勘案すると、誰もが心身共に緊張することであり、早急に結論づけにくいと言わざるを得ない問題である。すなわち、彼らはそれぞれに自問自答しながらの体験学習であったといえるのではないか。

熱田 [10] は「青年期は、さまざまな未知の体験をすることによって、自分自身をみつめ直し、周囲の人からどのようにみられているかよりも、自己のあり方を考え直し、自己を否定的に捉えていってしまう時期である」としているように、自己の目標が明確になっていない者や進路に迷いを生じている者は、否定的な表現になっていたものと考えられる。

3年次の後半は、進路について明示し、活動を開始する時期でもある。本調査では合宿を機に自分の将来を改めて考え、自分がしたいことは何かについて、思考しはじめた段階の者も全体で2割以上いる。彼らは、誰かに背中を押されながら就活のスタートラインに立てたと正直に記述できたことそのものが、合宿での収穫といえよう。

(3) 学部別にみた得点差の要因

社会スキルテストKiss-18において、学部別得点差は因子に分けて検討することで明らかになった。質問項目がばらばらでなく、因子の構造を分析して比較検討することは、何らかの傾向を見いだすことができる。Kiss-18の因子分析は多数の先行研究がある。例えば、田中・小杉は企業従業員を対象としたKiss-18の調査から、対人関係の処理にかかわるトラブルシューティングスキル、仕事の計画や管理に関するマネジメントスキル、挨拶や他者との会話能力のコミュニケーションスキルの3因子を抽出している [11]。本調査でも、おおむねそれに近い因子が3つと、加えてアサーションに関するスキルが導き出されている。アサーションは恐怖感やトラブルのプレッシャーに負けず、自分の意見を言える能力であり、就職活動には必要なスキルといえる。

経営学部と人間健康学科を比較すると、第2因子コミュニケーションスキル、第3因子マネジメントスキル、第4因子アサーションスキルに明らかな差をみることが出来る。第2因子では、人間健康学科において、経営学部のような得点の伸びが見られず、第4因子では低下している。また、第3因子では、経営学部も伸びているが、人間健康学科に大きな伸びが見いだせる。

要因は、各学部における学生の気質差や参加者の意欲差というだけでは説明が難しい。これらは経営学部と人間健康学科のプログラム差が影響したものと考えられる。本プログラム作山の山本氏（株式会社インテルプレス）によると、「1回の発表では、予測より話せない自分を確認しただけで終了するが、2回発表することによってある程度の成功体験を得られるのではないか。この理由から、人間健康学科より後で実施した経営学部のプログラムを一部修正し、模擬面接を2回実施した」とのことである。

経営学部の学生は、この成功体験が自信につながったのではないだろうか。第2因子は自ら積極的に参

加し、コミュニケーションしていく能力、第4因子は降りかかった困難な状況进行处理したり、立ち向かったりする要素が含まれている。これらは気持ちの前向きさが反映される要素であり、その時、学生が感じている自信が、社会スキル得点を引き上げる方向に働いたことが考えられる。

人間健康学科の伸びの大きかった第3因子は、仕事の目標や手順といった仕事に関連する項目の集まりである。就職合宿なので、知らなかった情報を手に入れ、それを活用して新規場面に対処できるという予測や感覚が影響したと考えられる。また、計画を立て、他者に指示を出し、他者を助ける要素を含むもので、グループでの活動や目標の達成がうまくいったことも推察される。

人間健康学科の第4因子の低下は以下の分析が可能である。今回の合宿プログラムの構成の特徴としては、隔離された非日常的な環境のなかで（非日常空間）、彼らにとって先のことであるように考えていた就職問題を（現実の突きつけ）、現実的に彼らが出ようとしている社会の中にいる人が体験的に話を（社会人の先輩の言葉）。そして、模擬面接では個々が作成した課題を全員の前で見せなければならない（他者の評価）。それらは強力なプレッシャーとなって学生に作用したことが考えられる。基本的にはこれらのプレッシャーは得点を下げる方向に作用する。つまり、現実的に社会スキルが下がるわけではないが、大変さを理解し、自己の現実を知ることによって得点が下がることがある。

得点の上昇をみた多くの研究（たとえば津村 [12]、菊池 [13]）の中で、中尾は得点の降下を報告している。ただ、中尾は別の分析法により、この結果は社会スキルそのものが低下したのではないことも明らかにしている。それらの得点降下者へのインタビューのなかで、「大変な授業」「人間関係やコミュニケーションの大変さを理解した」という声が聞かれている。これは現状の大変さを知り、自分の能力の認識を新たにすることで、社会スキル得点は降下する可能性があることを示している [14]。つまり、人間健康学科では、自分自身の社会スキルへの認識の変化が得点の降下をもたらしたといえる。もちろん経営学部でもこの状態は起こっていたが、それらを上回って得点を押し上げたものは、2回目模擬面接の成功体験から来る自信が結果に結びついたと考えられる。

VI. おわりに

1. まとめ

大学を卒業して就職をするという出来事は、彼らが今まで経験した転機の中で最も変化が大きく、未知の部分が多い。就職活動の重要さは理解できるが、何をすればよいかかわからず、就職活動にとりかかれないう者、不安が大きく回避する者、数度の失敗であきらめる者などがあらわれる。それだけにこの就職合宿は学生を就職活動へ動機付けるための、とりかかりのプログラムとして、その有効性が期待されている。

社会スキルテストKiss-18の全般的な得点の上昇（第1～第3まで）という結果からは、学生たちは概ね、失敗を謝ったりすることができる問題解決能力、知らない人に話しかけることができるコミュニケーション能力、仕事の目標を立てそれを実行するマネジメント能力が上がったと感じていることを現している。就職合宿のねらいである就職に関する知識やスキルが手に入り、発表体験から自信もついたのでないかと推察される。記述内容においても、合宿体験で得たこととして「就職活動に関する知識やスキルの習得」「就職活動に対する意欲の向上」「進路に対する自己の課題認識」の3点が上がっている。

ただ、経営学部と人間健康学科ではプログラムに違いがあり、それが差となってあらわれている。模擬面接が1回人間健康学科は初めての経験であるため大半がうまくいかず難しさを実感するだけで終了した。2回模擬面接を行った経営学部は1回目の失敗を修正し、ある程度満足のいく状態で終了できたと考えられる。人間健康学科は就活の知識習得や自己の課題認識で終わった可能性がある。

それは、記述内容の分析においても同様の結果が得られている。経営学部は事前の記述がやや少なく、それほど期待していたとは推測できないが、事後は「就活に対するモチベーションの向上」が4割以上、「就活に対する課題の認識」が4割であり、合宿参加者の目標が概ね達成されたものと思われる。他方、

人間健康学科では、事前に就活に対する現状や知識を得たいという期待をもって臨んでいる。事後は、「就活に対する課題の認識」が約6割、「就活に対する漠然としたイメージ」が3割であり、合宿参加者は、期待と同時に不安も交錯し自己の課題認識を深めたものと考えられる。

以上から2009年度の就職合宿は3年生を就職に対して動機づけるプログラムとしては多くの点で有効であったことが明らかである。ただし、プログラムの構成においては、学生の体験が次への意欲に結びつくような配慮が必要であると考えられる。

2. 今後の課題と展望

今後の課題としては、これら就職合宿の成果を第二、第三の仕掛けへとつないでいくことが肝要である。2009年度はフォローアップ研修という形で継続を試みたが、次第に参加者が少なくなってしまった。学生を勇気づけることができるプログラムの検討とともに合宿後、学生の意欲をいかに継続させるかの工夫が必要である。

この合宿を契機として就職活動をスタートさせた学生が多くいたことは成果であったといえる。人間健康学科のA君は卒業、就職を目指し、休みがちであった授業の単位取得にも意欲的になった。ただ、人間健康学科のB君は、面接や自己PRの作成がともうまくいかず、しばらく就職関連の催しに全く出られなかった。このような学生に対する個別のフォローも必要となってくるであろう。

また、文部科学省のキャリア教育の取り組みの基本として、「①一人ひとりのキャリアの発達への支援、②『働くこと』への関心・意欲の高揚と学習意欲の向上、③職業人としての資質・能力を高まる指導の充実、④自己意識の涵養と豊かな人間性の育成」として、働く意欲の高揚、豊かな人間性など抽象的な表現を含めた支援の要点をあげている [15]。

本学では1年次からキャリア教育に関するプログラムを計画しているが、十分に機能しているとはいえない。3年次の就職活動を開始する時期にきて、職業への関心や意欲の向上を図っているのは遅すぎるのではないか。したがって全学的に1年次から基礎学力を向上させ、3年次に向けて社会人基礎力といわれている「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」などを養い、専門教育と合わせて系統的に再編する必要があると考える。

最後になりましたが、社会スキルテストKiss-18の分析に関して（株）インテルプレスの山本真久氏に有用なご意見をいただきましたことを感謝いたします。

<注>

- 1) セルフ・エフィカシー：何かをしようと思ったとき、それが実現可能だろうと思える知識と自信。

引用・参考文献

- [1] 厚生労働省「平成21年度大学等卒業予定者の就職状況調査（平成22年4月1日現在）について」
<http://www.mhlw.go.jp>
- [2] 菊池章夫『思いやりを科学する』川島書店、1988年。
- [3] 菊池章夫「Kiss-18研究ノート」岩手県立大学社会福祉学部紀要、第6巻第2号、2004年、pp.41-51。
- [4] 菊池章夫「Social Skill尺度の作成」東北心理学会、42回大会発表、東北心理学研究、38号、1988年、pp.67-68。
- [5] 和田 実「社会的スキルとノンバーバルスキルの自己認知と心理的適応との関係」カウンセリング研究、36巻、2003年、pp.246-256。
- [6] 菊池章夫・堀毛一也編著『社会的スキルの心理学-100のスキルとその理論』川島書店 1994年、pp.2-22。
- [7] 文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的な調査研究協力者会議報告書」2004年、pp.3-4。
- [8] 浦上昌則・坂野雄二他編『セルフ・エフィカシーの心理学18章』北大路書房、2002年、p.205。

- [9] 『中日新聞朝刊』2010年8月15日
- [10] 熱田智子「就職活動と自己評価の関連について」臨床教育心理学研究、Vol.34、2008年、p.38.
- [11] 田中健吾・小杉正太郎「企業従業員のソーシャルスキルとソーシャルサポートコーピングとの関連」産業ストレス研究、10、2003年、pp.195-204.
- [12] 津村俊充「ラボラトリーメソッドによる体験学習の社会的スキル向上に及ぼす効果—社会スキル測定尺度Kiss18を手がかりとして—」アカデミア（人文・社会系）南山大学紀要、74号、2002年、pp.291-320.
- [13] 菊池章夫『社会的スキルを測る：Kiss-18ハンドブック』、川島書店、2007年.
- [14] 中尾陽子「ラボラトリーメソッドによる体験学習が社会的スキルに及ぼす影響」アカデミア（人文社会学系）南山大学紀要、79号、2005年、pp.219-239.
- [15] 前掲書 [7]、pp.18-21.

資料1 2009年度 就職合宿事前アンケート

2009.11

1. この就職合宿は自分の役に立つと思いますか。ひとつを選びチェックしてください。 例 <input checked="" type="checkbox"/>					
<input type="checkbox"/> 役に立つと思う		<input type="checkbox"/> どちらともいえない		<input type="checkbox"/> 役に立ちそうもない	
2. あなたがこの就職合宿に期待しているものがあれば（ ）に記入してください。					
[]					
3. あなたに、あっていると思うものを選び、下の番号に丸をつけてください。					
5	4	3	2	1	
いつもそうだ	たいていそうだ	どちらともいえない	たいていそうではない	いつもそうではない	
1. 他人と話していて、あまり会話が途切れない方ですか。	5	4	3	2	1
2. 他人にやってもらいたいことを、うまく指示することができますか。	5	4	3	2	1
3. 他人を助けることをうまくやれますか。	5	4	3	2	1
4. 相手が怒っているときに、うまくなだめられますか。	5	4	3	2	1
5. 知らない人とでも、すぐに会話が始められますか。	5	4	3	2	1
6. 周りの人たちとの間でトラブルが起きても、それを上手に処理できますか。	5	4	3	2	1
7. 怖さや恐ろしさを感じたときに、それをうまく処理できますか。	5	4	3	2	1
8. 気まずいことがあった相手と、上手に和解できますか。	5	4	3	2	1
9. 仕事をするときに、何をどうやったらよいか決められますか。	5	4	3	2	1
10. 他人が話しているところに気軽に参加できますか。	5	4	3	2	1
11. 相手から非難されたときもそれをうまく片付けることができますか。	5	4	3	2	1
12. 仕事のうえで、どこに問題があるかすぐに見つけることができますか。	5	4	3	2	1
13. 自分の感情や気持ちを、率直に表現できますか。	5	4	3	2	1
14. あちこちから矛盾した話が伝わってきても、うまく処理できますか。	5	4	3	2	1
15. 初対面の人に、自己紹介が上手にできますか。	5	4	3	2	1
16. 何か失敗したときに、すぐに謝ることができますか。	5	4	3	2	1
17. まわりの人たちが自分とは違った考え方をもっている、うまくやっていますか。	5	4	3	2	1
18. 仕事の目標を立てるのに、あまり困難を感じない方ですか。	5	4	3	2	1

ただし、事後アンケートの設問2.3.は事前アンケートと同じ。なお、各アンケートの質問項目1については、学務部就職課が、2010年3月24日の「就職合宿報告会」において結果を発表し、『就職合宿年度記録集』—平成22年度—で報告したため本稿では省略する。

資料2 就職合宿後に得た学生の思い

カテゴリー	サブカテゴリー	番号	経営学部（コード／記述内容から引用）	サブカテゴリー	番号	人間学部（コード／記述内容から引用）
就職活動に対するモチベーションの向上	就職活動の意欲の向上	R1	就職活動のヤル気ができた	就職活動の意欲の向上	H1	就職に対する意気込みを得た
		R2	就職活動に対する意識がかなり向上した		H2	もっと頑張りたいと思う
		R3	就職のためのキッカケをつかむことができた		H3	全てを得た、ためになった
		R4	就職活動への意欲があがった		H4	意欲・やる気がでた
		R5	就職試験、また違ったことが体験できたよかった		H5	頑張って会社に受かろうと思う
		R6	いろんな学生や先生と交流できてよかった		H6	でも少し、自信をつけることができた
		R7	最初、どうなるかと不安もあったけれど、何がよくて悪いのかが聞けて良かった			
		R8	意見を言ってもらえて本当に良かった			
		R9	全てが勉強になったと思う。何が必要なのかということが分かったので、そこをやっていきたい			
	面接に対する意識の変化	R10	面接がどのようなものを体験できて、その場の緊張感だけでなく内容も指摘してもらいためになった	面接に対する意識の変化	H7	面接の時に何をすればよいか、対応すればよいかがつかめたと思う
		R11	面接のために何をすべきか分かった		H8	面接の対応や流れが全てではないが分かった
		R12	面接での立ち居振る舞いや姿勢などが学べた			
		R13	面接の受け方や、自己PRのやり方がよく分かった			
		R14	面接の緊張感を肌で実感できたことが大きかった			
		R15	面接に対する意識がかなり変わった。これから練習しようと思った			
		R16	面接で以前より断然しゃべれるようになった			
		R17	アドバイスを沢山もらい、本番でそのアドバイスどおりにしていきたい			
		R18	明確にやらなければいけないことが分かった			
	R19	伝えたいことはあるので、それを今後どう生かすか頑張りたい				
	自己PR作成の向上	R20	自己PR作成の向上	自己PR作成	H9	具体的にどのようなことを書けばよいか分かった
		R21	特に自己PRをもう一度見直す時間が沢山あったのでよかった		H10	面接での自己PRで、具体性の必要さがわかった
		R22	自己PRが作れた			
		R23	人前で自己PRが前よりも緊張しずしゃべれるようになった			
		R24	今の自分の現状を知ることができ、役に立った			
		R25	度胸、やればできるということ、自信が少しだけもてるようになった			
		R26	少しちゃんとしゃべれることができるようになった			
		R27	人前で話す経験はとても大きいと思う			
		R28	大人の方に堂々と話せるようになった			
		R29	自信がついた			

就職活動に対する課題の認識	面接の内容・緊張感	R1	面接で緊張していけない自分	面接の内容・緊張感	H1	面接の仕方や内容 (4)
		R2	面接がどうゆうものか分かった		H2	面接で、今自分がどこまで話せるのか
		R3	面接の雰囲気を味わうことができ、話し方で変わるものだと感じた		H3	面接の能力 (2)
		R4	面接での準備が重要、発声力や面接官に向けての目のやり場など		H4	面接での話の組み立て方
		R5	面接時の緊張感、話し方 (2)		H5	面接の話し方のポイント
		R6	面接での緊張感 (文章の構成)		H6	本番さながらの緊張感の体験 (2)
		R7	面接の難しさを知った		H7	面接を何回も何回も練習した方がいいと思った
		R8	面接力、考え方		H8	面接の難しさを認識できた (2)
		R9	面接の内容をどうすればよいか		H9	面接時の話の内容の足りないものが分かった
		R10	面接においてどういうものがよいか、どういうふうに話せばいいか学んだ		H10	面接に対して伝える難しさと緊張感をじかに感じた
	人前で話す難しさ	R12	面接時の自己PRは話す難しさが認識できてよかった	H11	面接の難しさとポイント (5)	
		R13	もっと自己PRしていくことが大切	H12	自己PRについて考え直す必要性と練習が大事	
		R14	自己PRすることの難しさ	H13	自己PRの大切さ (2)	
		R15	自己PRの書き方	H14	話し方、自己アピール能力	
		R16	人前で自分のことをアピールするむずかしさを学んだ	H15	少ない時間に自分のPRをいかに上手くやるのか	
		R17	人前で話す緊張感	H16	知らない人に向けて自分をPRする能力	
		R18	人前で話すこと、面接のコツ (2)	H17	人前に立つことが、いかに自分が苦手か分かった	
		R19	人前で話す機会、期間をもっと伸ばす	H18	人前で話すことの難しさ	
	現状の認識・事前準備	R20	限られた時間で要点をまとめて、かつ相手に伝わり易いようにするのがいかに難しいことが分かった	H19	人前ではなかなかうまく話せないということを自覚した	
		R21	言葉の言い回しなどまだまだ勉強も必要だし、構成の難しさがわかった	H20	自分の学生生活、将来像をまとめることの難しさ、人前で話すことの難しさ、就活の難しさを知ることができた	
		R22	もっと準備がいることを知れただけよかった	H21	現在自分がどのくらい話せるか分かった	
		R23	自分自身のことを話すことの難しさを知り得た	H22	自分のことを話す難しさを知った	
		R24	自分の得た経験を言葉にして相手に伝える難しさを知った	H23	とにかく声を大きくはきはきすること	
		R25	ひかない強さ、話す内容の流れ、目線、座り方など就職というものをより考えさせられた	H24	私のできなさを痛感したことで、今後の行動に影響されると思う	
		R26	練習することの大切を知った	H25	今の自分がどの程度できたかを確認できた	
				H26	学生生活の振り返り、意思を伝えること	
		H27	自分の弱点といえる部分の認識 (2)			
		H28	今の自分の現状と会話力の把握			
		H29	今の自分がどこまでできるのかを知ることができた			
		H30	言葉づかいの難しさ、緊張に耐える心を身にしみて感じた。			
		H31	事前準備がとても大事			
		H32	将来を具体化すること			
		H33	自分を知る、それを伝える、売りにできる			
		H34	将来を具体化すること			

就職活動に対する漠然としたイメージ	自己自身を知る	R1	自信がなくなり一生懸命やらなくてはいけないと思った	自己自身を知る	H1	今の自分の実力	
		R2	自分がどれだけできないかを知ることができた		H2	自分の強みを知ること	
		R3	今自分がもっている実力はこんなものなんだと思い知らされた		H3	自分の現状を知れた (2)	
		R4	自分で生きていくことの大変さを知った		H4	自分を見つめ直すことができた (2)	
		R5	椅子の座り方や姿勢		H5	自分のことを考える力	
		R6	変な緊張感		H6	自分の言いたいことをいう	
		R7	自分の発言に責任をもつこと		H7	就職の面倒くささ	
	就活のスタートライン		R8	他の人のいいところを見て学ぶこと	就活のスタートライン	H8	就職活動に対する考え方
			R9	自分の不足をしっかりと勉強していく		H9	就職に必要な基礎
			R10	自分はこれからだ		H10	就職活動に活かせる知識
						H11	合宿前に比べて、本当に就職活動なのだ実感した
						H12	就職への危機感
						H13	面接の概要を知った
						H14	何度もいろんな人に話を聞いてもらう
						H15	知らない相手に自分はどのような人間なのかをいう
						H16	危機感、スタートラインに立てた
						H17	学生生活などの書き方
						H18	難しさを改めて実感した (2)
						H19	具体的内容を説明すること

(人数)

受理日 平成22年9月28日